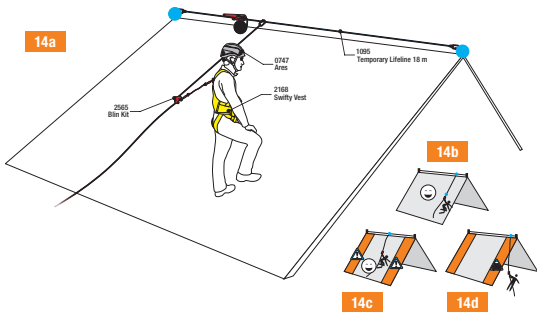


ROOF

屋根、テラス、傾斜面、岩壁などの作業

建設現場やメンテナンスのために屋根やテラスで作業することは、スリップその結果として屋根の端から落ちたり、構造物の表面を突き破ったりするリスクを意味します。ポジショニングと墜落制止の両方の一連の安全システムを組み合わせ、各アクティビティと構造物の種類に最適なソリューションを取得できます。

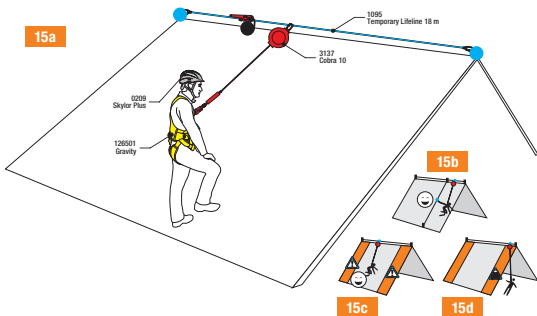


屋根とテラスでは、水平アンカーライン(永続的または一時的)または個別のアンカーポイントを使用できます。

作業中の機動性と安全性のために、フォールアレスト用デバイスでアンカーに取り付けられたロープを使用できます。

作業者は自由に動くことができ、墜落した場合にデバイスが作動します(図14a)。

墜落の可能性があり、振り子や揺れの可能性がある屋上/テラスの横方向の端の近く(図14c-d)では、ディブレーションアンカーを使用した墜落防止ロープ(図14b)もしくは危険な振り子や揺れを防ぐ位置にあるアンカーポイントに接続された追加のセーフティランヤードを使用する必要があります。



自動巻取り式の落下防止装置を正しく使用すると、屋根やテラスで作業するとき最適な移動の自由と安全性が得られます。

屋根やテラスの端から落下した場合にケーブルがせん断されないように特別に認定された、作業者のハーネスとデバイスケーブルの間に配置されたショックアブソーバーを備えた自動巻取り式の落下防止装置を使用する必要があります(図15a)。

横端付近での作業中は、振り子や揺れなどで転倒する恐れもあります。(図15c-d)。この場合、巻取り式デバイスは、追加のアンカーライン(図15b)または振り子や揺れを防ぐように設計されたエッジ上の適切に準備されたアンカーポイントに接続できるショックアブソーバー付きのランヤードと組み合わせる必要があります。

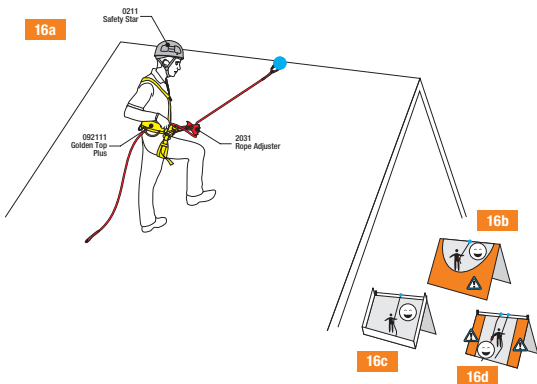


図16-場合によっては、調整可能なポジショニングランヤードを使用して、作業者がデバイスにアクションをかけたままにすることができます(図16a)。

調整可能なポジショニングランヤードは落下防止の重要な機能を実行しないため、レストレイント技術を使用して、位置決めストラップポジショニングランヤードの長さが作業者が屋根の端に到達するのを防ぐようにするか(図16b)もしくは屋根の端に落ちる可能性を防ぐために保護柵等を設置する必要があります(図16c)。

墜落のリスクがある場合は、墜落制止システムとワークポジショニングランヤードを組み合わせることが不可欠です(図16d)。